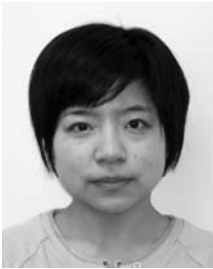


大動物臨床獣医師を目指して

荒木香里（東京農工大学農学部獣医学科4年）



大動物獣医師になる。ずっと持ち続けている私の夢である。どこで接する機会があったのか憶えていないが、いつの間にか大きな動物が好きになっており、「人命を救うのが人医なら、大好きな牛の命を救うのは獣医師！」その一心

だけで獣医学科に入学した。

牛と働く仕事、入学したころの大動物臨床獣医師についての私の認識は実はその程度しかなかった。

産業動物獣医師の仕事を初めてみた時、小動物臨床と比べて、決して医療面で充分とはいえない状態にあることを知り、少なからずショックを受けた。

思い描いていた診療獣医師像とは大分違った。その時は、伴侶動物と産業動物では飼育の目的も、医療の目的も異なるということが受け入れられていなかった。

単純に疾病予防の理想を押し付けても、それが農業経営と噛み合っていないければ意味がない。農家の状況を知り、実現可能な改善策や処置を行う。獣医師は動物の健康・生命だけでなく、農家の生活を背負う。科学者としての立場から、農業を支える仕事なのだ。

産業動物である以上、純粋な延命の医療を行うのではない。費用対効果をまず考えなくてはならない大動物臨床は、私のやりたかったことなのか？ そう考えた時もあった。確かに廃用や淘汰の判断を下すのはつらいだろう。しかし「だめになる前に何ができるのか、いかに家畜としての役割を最大限発揮させるのか」牛をかわいがりながら、牛のために思いながらそれを考える獣医師の

姿は、描いていたイメージとそう遠くはないのではないかと、徐々に思うようになった。

産業動物獣医師の仕事は充分に知られていないのではないかと、最近よくそう感じる。特に私のいる東京などの都市では、獣医師と聞いて思い浮かべるのは小動物獣医師であり、産業動物獣医師というとピンと来ない人が多い。そもそも畜産の現場自体が私たちの普段の生活からかけ離れている。

実習中、農家を廃業する話も耳にしたし、逆に新規に就農する人とも会う機会があった。農家を経営していくのは厳しいけれど、未来があるから就農する人もいる。畜産は私たちの毎日の生活に必要なものだから、未来を感じられるものでなければならない。なぜ厳しい状況なのか、それは畜産への関心が低いことが一因であると思う。多くの人に畜産への理解をもってもらいたい。獣医師も含めそこで働く人達の仕事を知ってもらいたい。それには獣医師として何ができるのか。単に目の前の動物や農家と向き合うだけでなく、それ以外の人との関係をつないでいけるようになりたい。それが畜産の現状をよりよくするために必要なことだと思う。

目指すものは同じだが、描く姿は前とは違う。大動物臨床で働く、たくさんの様々な立場の人に会い、話を聞き、そのたびに自分の中での夢の形が変わってきた。これからも多くの現場を見て、話をきいて、目指す獣医師像をより明確にしていきたい。

「獣医師さん、頼りにしてるからね。」何もできない私にそうしてくれる農家の方々と、農業を支える獣医師になりたい。

† 連絡責任者（担当教官）：白井淳資（東京農工大学農学部獣医学科獣医伝染病学講座）

〒183-8509 府中市幸町3-5-8 ☎・FAX 042-367-5780 E-mail : jshirai@cc.tuat.ac.jp